

第 35 回庭野平和賞 受賞記念講演

【仮訳】

「第 35 回庭野平和賞 受賞にあたって」

アディアン財団 理事長

ファディ・ダウ

2018 年 5 月 9 日

聴衆の皆様、兄弟姉妹の皆様

アディアン財団とそのコミュニティを代表して第 35 回庭野平和賞を受賞するにあたって、皆様の前にこうして立つと、強い世界的な仲間の絆意識が私に宿るのを感じます。平和は分割され得るものではありません。平和は一つであり、それは私たちの分断された生活や人間性を統合する方法です。

庭野平和賞の受賞者にアディアンを選んで下さることによって、多様な社会の中での共存を強めること、そして和解と宗教的な連帯の促進におけるアディアン財団の使命と働きを讃えて下さるのみならず、皆様方や私共の間の、そして世界の全ての平和を築くピースメーカー達との深く目に見えない絆を認識して下さっておられます。

私たちは皆、実に、人類家族の未来でもある平和への、同じ旅路を歩む友であります。それゆえ私は、私の同僚と共に、レバノンという小さな国から、傷ついている中東という遠い所から、日本に来ました。それは、私達のような見知らぬ者の中に兄弟の間柄や連帯を見いだして下さりそれを申し出て下さったことにお礼を申し上げます。

従って私達は、私達自身のことを、名誉ある庭野平和賞の数々の素晴らしい受賞者のリストに加えられる単なる名前ではなく、ピースメーカー達の美しい地球家族に加えられる新しい兄弟姉妹であると認識しております。私達一人ひとり、それぞれ個別に、異なったやり方や異なる状況の中で、平和のために働いていますが、全体として、唯一無二の私達人類に奉仕し、その魂に栄養を補給し、共通の未来を築いているのです。

こうした同胞と連帯の意識を持って、私は、庭野平和財団、庭野浩士理事長、そして庭野平和賞選考委員会の皆様に、アディアン財団への信頼を寄せていただいたこと、私達の、諸宗教協力をとおして世界平和の理想を推し進めることへ大いに貢献する、という使命と活動を認めて下さったことに対して、感謝申し上げます。

今回の受賞は、私達にとって大変光栄であり恐れ多いことと思います。ある時ネルソン・マンデラが「人は賞を受賞したいと望んで自由の闘士になるのではない」と語ったよう

に、どのような困難や危険に出会おうとも、平和と一致のための活動が私達の義務であり、私達の人間性の意味の源泉であると理解しています。

この度の受賞で私達は誇りを隠すことなく、誰の心からも人間性の灯が消えてしまうことがないように、そして、心と心の交わりが平和という日の光をもたらすように取り組む使命を全うする責任を、日々になすべき細かな事柄もおろそかにすることなく、しっかりと果たして参ります。

在家仏教教団立正佼成会の創立者であり初代会長である庭野日敬師の事績に触発されて、私達は皆様と共に「平和は単に国々の間に争いがないだけではなく、人々の内面において動的な調和があること、そして社会や国家、世界においても同様である」と信ずるものです。

それゆえ平和は、専門家の人々のためだけの活動ではありません。平和は全ての人、とりわけ全ての信仰者の責任です。平和は、「多様性が一致を築く」というスローガンの下、アディアン私達が近づこうとしている人生の旅路です。

このスローガンが反映しているのは、多様性を認め、多様性を可能とすることによってこそ、本物で持続する一致を築くことや人の尊厳を尊重することができるという財団創設の精神です。従って、この平和の旅路を支える三つの基本的価値観は、多様性、連帯、そして人の尊厳であると私達は考えます。けれども、残念ながら平和は、平和的な旅路ではありません。むしろ、これらの価値からの逸脱に直面したり、人間性を病から回復させたりするといった日々の奮闘です。私はこれらの課題の中から三つの課題について述べ、平和と一致を構築しようとしている私達が、どのようにそれらの課題に直面しているかをお話ししようと思います。

兄弟姉妹の皆様

第一に、多様性のない所に平和はありません。その代わりに、支配や差別、排斥、弾圧があります。多様性の認識なしに平和を築こうとする人は、不公平で支配的な状況を作り上げ、苦しみと暴力を生み出すのがおちです。

今日の世界で最大の脅威の一つは過激主義です。実のところ過激主義者は、自分の唯一のイメージに従って世界を見て、真実や自分のイデオロギーの外にある美や現実を見ることを拒絶している人達です。

今日、私たちの世界は実に、宗教的、民族的、文化的、生態学的、国家主義的、そしてイデオロギー的な、異なる形の過激主義に病んでいます。多様性が否定されると、人は、自分も含めて、人の生き方を許せなくなってしまいます。

世界全体は、イラクやシリア、レバノン、そして世界の他の地域でイスラム国が犯した残虐行為の数々から、まだショックを受けたままです。それは、神の名の下に行われた、人々の殺戮や、教会や寺院、モスク、そして考古学的な遺産や文化的な遺産の破壊を目の当たりにして受けた、私達人類の心に負った深い傷です。難民の前で扉を閉ざしたり、民族的もしくは宗教的少数派を排除や差別したり、弱い立場の人々を虐待したりすることの根拠に、文化的な相違や経済的な特権が使われること、それは人の魂への裏切りでもあります。

今日の私達は今まで以上に、お互いに対する、そして自然環境に対する共同責任を持つという意味で、「グローバル市民」となることが求められています。しかし、もし私達が非排他的でなければ、私達は、人的な要因や環境的要因を包括するという意味での「グローバル」にはならないのです。こうした理由から、アディアン財団において私達は、世界を過激主義や宗派主義、そしてポピュリズムから世界を癒すことに貢献するため、「非排他的市民権」という概念を発展させました。それは、多様性によって一致を築こうとする文化的、教育的、そして政治的な取り組みです。

カトリック教会の長であった故ヨハネ・パウロ二世は、レバノンが経験した共存の中に、世界へのモデルをご覧になり、「レバノンは国というものを超えた、西洋と東洋に対する、自由のメッセージであり多元主義の実例である」と話されました。他の人々は、レバノンが文化と宗教の対話に関する世界センターになることを主張しています。

それゆえ私は、今回の平和賞を単にアディアンを代表して受賞するだけでなく、共存と平和が美しい同義語であるレバノンという国が、国内における使命そしてグローバルな文明のもつ使命において自信を取り戻せるよう、レバノンを代表して受賞するものです。

中東では現在も戦争や紛争が起きていますが、アラブの国々の多文化で多宗教な環境にある若い世代が、多様性を受け入れることに熱心で共存と非排他的市民権の担い手となっていることを、私は喜んで皆様にお伝えしたいと思います。

私たちが多元的共存のために作った「タードゥディア」と呼ばれインターネットのメディアプラットフォームを初めの年に2千3百万人以上の若者が利用しました。そして、レバノンと他のアラブの12カ国にいる数百人のトレーナーが、それぞれの地域社会の何万人もの人々に対して市民権と共存の価値を広めています。こうした若者達と共に、不公平と暴力の雲に隠れてはいても、平和の太陽はここにあるのだと私達は確信しています。

第二に、正義と人々に共通する善のための奮闘である平和が、この世界が抱える第二の病「無関心」と共存することはできません。私達は幸いにも人類のために大きな業績が成し遂げられた時代に生きています。前世紀に成し遂げられた科学的、医学的そして技術的な進歩には目を見張るものがあります。

どれほど現在の私達が社会的コミュニケーションの革命によってお互いにつながりあっているかを知るにつけ、大いに驚かされます。さらに、私たちは皆、どれほど私たちの世界が、戦争や紛争、飢餓、搾取、その他の諸々によって苦しみ続けているかをよく知っています。

私達は同時に、人工衛星やインターネットによってグローバルにつながることができ、グローバルな情報にさらされても、未だにシャボン玉のような自分自身の狭い範囲の世界に極度に隔離されているようです。これゆえに私達は、お互いの相互関連性とお互いの責任に対する自覚が大いに欠如しています。ある人々にとっては、自分達を平和な心境に隔離し、残念ながらある種の精神的利己主義と無責任な無関心を助長するような隔離のためのシャボン玉として、宗教を用いているようできえあるのです。

創設以来アディアンは、諸宗教対話が、型通りの弁明的な議論から、私達が「宗教の社会的責任」と呼ぶものに基づく共通のコミットメントへと移行するように働きかけてきました。

ステレオタイプと偏見を克服することの手助けや、異なる地域間関係の橋渡しとなるような、対話をすることで相互理解の場を提供することが重要です。しかし、その対話が人間性の公正な理想を掲げるといふ共通のコミットメントの場となることは、対話や宗教自体の信頼性のためにも、今日一層重要になっています。

宗教の社会的な責任は、様々な背景を持つ信仰者を、共に必要とする人々に仕えるように、その人々の権利や尊厳を守るように、そして平和と和解のパートナーとして働くようにと促します。

信仰者は、平和と善を自分達のためや自分達のコミュニティのためだけに求めることはできません。宗教は普遍的な使命を掲げているので、宗教が約束するものは非排他的であることを示さなくてはなりません。

私達のグローバルな課題やさらには地域的な課題も共通のものであるなら、どうして私達は別々に活動したり、時には競うように活動したりすることにこだわらなくてはならないのでしょうか。人間性や人間の脆弱性は諸宗教の競合の場ではないし、そうであるべきではありません。

人間の脆弱性は、すべての人々、とりわけ信仰者にとって、慈悲の努力を人類の兄弟姉妹への奉仕や愛に結び付ける機会であり、いつでもそうあるべきものです。慈悲は仏教やその他のアジアの宗教において本質的な価値であることを私は知っています。同様に、イスラームの伝統においても、予言者ムハンマドの言行録に「神により近き者は、その宗教にかかわらず、最も人類に尽くす者である」とはっきり語られています。

イエスの教えの中でも、神を愛し神に仕える方法が、弱い人に対する奉仕であることは

明らかです。

この酷く長引く戦争の影響を被っているシリアの人々の劇的な状況への対応として、アディアンは専門家とキリスト教徒とムスリムの異なる宗派の宗教指導者を集め、私たちとともに住む場所を追われた人々、特に最も若い世代に対して、彼らを過激の道に走る危険から守るよう、平和と回復のための教育を提供するために力を貸してほしいと呼びかけました。

それ以降、私たちはシリアの子供達が終わりのない戦争の燃料ではなく、将来ピースメーカーとなっていけるよう準備に取り組んできました。特に紛争の時にあっては、いかなる形であれ自己中心的、宗派的支配や分離を正当化するために宗教の教えを用いるのではなく、むしろ宗教の社会的責任こそが、異なるコミュニティの信仰者たちが宗派の垣根を超え共感に生きるための手助けとなるのです。

簡潔に言えば、そうした時こそ、宗教が人間の為になるようつくられたものであり、その逆ではないことを思い出させるのです。それゆえ、人類への働きがあらゆる宗教の天なるメッセージの最も本来的な反映であるといえるのです。

第三に、私達人類は、すべての人間の本質的な尊厳に反対する差別という病にかかっています。平和がそうであるように、人間の尊厳もはっきりと目に見えるものではありません。

従って今日の最も勇敢なヒーローは、現状や、時として自分の側の人々と対峙して、差別と闘い、すべての人の尊敬と尊厳を守る人たちであります。

ここで人間の尊厳を守るための諸宗教協力について、一つ有意義な話と力強い例をお話ししたいと思います。上エジプトに、キリスト教の一派のコプト教徒であるサマーという男性とハンナというムスリムの女性がいます。二人とも社会的、宗教的差別がコミュニティ間に頻発する紛争の原因となるような地方の貧しい地域に住んでいます。

そうした紛争的状況にある人々は、他方を非人間的に扱ったり悪魔のように扱ったりすることで、怒りや暴力を正当化しています。サマーとハンナはこうした敵対の構造に陥ることを拒否し、二人で被害者と不正を生み出すこの状況に立ち向かうことにしました。

二人は共に現状に立ち向かう勇気を持ち、キリスト教徒とムスリム両方のコミュニティの若者のために共通の平和教育活動プログラムを作り出しました。私達が二人の事を知り、2か月前に彼らの事を宣伝するための短い動画を作成するまでは、二人は全くの無名でした。現在までに、エジプトで200万人以上の人々が彼らの動画を目にしました。二人は差別への拒否のモデルとなって、彼らの母国、エジプトにおける全国共生の賞を受賞しました。

今日、私たちの世界や人類を救うためには、こうしたタイプのヒーローが求められてい

るのです。信仰と愛そして意思の力のみによって、紛争を止め、差別を克服しようとする、武器を持たない人々です。

聴衆の皆様、兄弟姉妹の皆様

平和は、多くの宗教において数ある神の名前の中の一つです。それゆえ、私達は、平和は私達の遺産であり私達の未来であると信じます。従って私達は、平和の構築という使命から逃れることはできません。

庭野平和賞の受賞者でもある神学者のハンス・キュングは、宗教間の平和がなければ世界の平和はないということを述べておられます。私は今日、この言葉を、もし私達に平和がないならば宗教もない、と言い換えてみることもできるのではないかと思います。

私が申し上げたいことは、宗教も、諸宗教協力も、平和への重要な道であるということ、平和はそれ自体もまた本当の宗教の信仰と諸宗教協力への道であるということです。

もし宗教が紛争と憎しみを正当化するための道具のような役割を果たし続けたり、それ自体の多様性を容認し、共に連帯し、人の尊厳のために尽くし尊ぶことができなければ、宗教はその力と信用を失うことになるでしょう。

本日、私達が多くの感謝とともに頂戴する賞は、たとえ多くの犠牲を払おうとも、誰も平和への希望、そして宗教さらには人類への信頼を失うことがないように働くべきであることを、私達に日々思い出させてくれることでしょう。

2006年のアディアン財団創設当初から、私達はこの使命のために働いてきました。本日から再びこのビジョンのために尽くしてゆきます。新しい現実と共に、私達の歩む道には、庭野平和財団のグローバルコミュニティに代表される美しいパートナー、兄弟姉妹がおられることに気づきながら、私達はさらに前進してゆきます。平和は唯一戦って勝ち取るに値する勝利です。私達は喜びと誇りをもって、力を尽くして勝利のために共に戦って参ります。